

平成30年度 金沢医科大学医学部入学試験問題
一般入学試験（後期）【小論文】

答えは解答用紙に記入しなさい。

【問題】 課題文を読み、300字以内で要約しなさい。

ロボットが人間のように物理空間を移動して、人工知能が社会的な意思決定をしてくれるようになったら、「もう彼らに何もかもを任せればいいのか」と考えてしまう可能性もあります。そうすると、私たちの自ら思考する力が弱まっていきそうです。パトロールの適切な行き先を人工知能が指示したという話がありました。人工知能に意思決定を任せていると、人間の「勘」などが磨かれなくなることもあり得ます。実際、テクノロジーの発展が要因となって、こういう問題はすでに起きています。以前、警察の方と話したときに、最近の犯罪捜査では、個人情報保護法の影響で聞き込みでは情報が取れなくなっていて、最初に防犯カメラの映像を確認して回ることになっていると言われました。しかし、聞き込みという昔ながらの捜査方法なしでは、かつての刑事が持っていた、「どうもこの辺が怪しいぞ」と“鼻を利かせる”直感が磨かれなくなる危険性があります。もちろん、それでもいいという考え方もあると思いますが、では、もし人工知能に全てを任せると、そのシステムでは対応できない問題が出てきたら、どうでしょう。誰がその問題を解決すればいいのでしょうか。実際、将棋ソフトでも、どっちが優位か形勢を判断する評価値は、絶対的に正しいわけではありません。人間から見ても接戦になっている場面では、値はソフトによってかなり幅を持つようです。そうすると、どこまで評価値の判断を参考にするかまで含めて、選択肢を考えていくことが必要になります。そして、その思考力は、やはり普段の対局から自分で考えることでしか、養われないのです。

もちろん、人工知能をいわば「仮想敵」のように位置づけてしまっ、その効果的な利用方法を検討しないのは、得策ではありません。うまく活用すれば、必ず私たち人間にとって大きな力となるはずです。例えば、その一つが、「セカンドオピニオン」としての人工知能です。「セカンドオピニオン」とは、医療の世界の言葉で患者さんが一人の医師だけでなく、別の医師からも、「こういう診断（あるいは治療法）もあります」と第二の意見を聞くことです。同様に、私は、人間どうしの判断だけでなく、人工知能に、「こういう可能性もあります」と提示してもらってもいいのではないかと考えています。将棋ソフトは人間の盲点を突いてくるという話をしましたが、逆に言えば、それは自分の視座が変わるような見方を教えてくれるということでもあります。「自分はこう思うが、人工知能はどう思うのか」と、あくまで絶対の判断ではないという前提で使っていくやり方もあるはずなのです。チェスの世界ではもう10年以上前から、ソフトを使って、指し手を分析したり、研究したりすることが当たり前になっています。初期の段階ではソフトの出す回答にはばらつきも多く、上手に使いこなせるかどうかは勝敗を分ける大きなポイントになっていましたが、今は皆が利用しているので、そこでは差が付きません。勝負のレベルはソフトをいかに上手に使いこなす、データベースも含めてプログラムをどの程度まで利用していくかという話にまで達しています。将棋の世界でも、人工知能が人間の盲点を突いてきた手について、「やってみたら、この組み合わせも案外良いのではないかと受け入れられることも増えてきました。今では人工知能の指した手が定跡じょうせきになっていく事例さえも出てきているのです。このように、人工知能が提示したアイデアを参考にしながら新しい手を考えたり、さらにそこから将棋の技術が進歩したりするケースが、すでに非常に多く起こっています。人工知能が学習する一方で、人間の側も人工知能から学んでいるのです。

ただ、こういう話とは別に社会のなかで多くの人々が人工知能の出した結果にいかにな納得するか、というテーマもあると思います。物事を判断・決定する際に、決定者がその問題を理解していない人に向けて、理解できるようにわかりやすく説明するかどうかは、基本的だけれどもとても重要なことではないでしょうか。多くの人にその決定を納得してもらうには、理解を補助する何らかのプロセスが必須だと思います。また、膨大なビックデータをうまく処理して、可視化する「ビジュアライゼーション」の技術は、これから先、とても大きな需要が出てくると考えています。人工知能が何をやっているのかわからないときに、それが何かを明快に説明する技術は重宝されるからです。

いずれにせよ、人工知能が社会に浸透していくことが確実視される今、セカンドオピニオンとしての人工知能を使いこなすことが、今後ある種のスキルとして問われていくのはほぼ間違いないでしょう。

羽生 善治、NHKスペシャル取材班『人工知能の核心』より（一部改変）